

救急現場でビデオ通話 遠隔手話通訳

日頃から手話で会話する人が救急車を呼んだ際に隊員と円滑にコミュニケーションが取れるよう、千葉県船橋市は9月から、手話通訳者がビデオ通話で会話の間に入る「遠隔手話通訳」を救急現場に取り入れた。県内初の取り組み。提案した市議会公明党（松寄裕次幹事長）はこのほど、担当者から利用状況を聞いた。

いざという時、やり取り安心

隊員の判断が迅速かつ正確に

千葉・船橋市

従来、患者は救急車が到着したら隊員に体の症状や過去にかかった病気やけが、かかりつけの病院などを口頭で伝える。

一方、これらのやり取りを耳が不自由な人たちは筆談を中心に行ってきたが、やり取りには時間がかかり、うまく意思が伝わらないことへの心理的負担も大きかった。

こうした苦労の実態を、市はこの訴えに呼応。元々救急車とドクターカー計17台に搭載されているタブレット端末にビデオ通話ア

プリをダウンロードし、手話通訳を行う市福祉サービ



は上話え
通訳者の
手話通訳
ビデオ通
話から内
容を伝え
る

は市議会公明党に対し、既に利用があったと報告。これまで以上に迅速かつ正確に状況判断できるようになったと説明し、「より適切な救命措置が可能となる」と効果を話した。

ス公社と24時間365日連携できる体制を確保した。これにより耳が不自由な人もいざという時、安心して隊員とやり取りできるよう改善が図られた。



救急現場での利用状況を確認する市議会公明党（奥側）

事業開始「すごく感謝」



市聴覚障害者
協会会長

三浦みどり氏

事業の開始をすごく感謝しています。以前、鼻血が止まらなくなり救急車を呼びましたが、隊員の方との筆談がスムーズにいかず大変でした。

ろう者の中には、コ

ミュニケーションの難

しさから救急車を呼ぶことをためらう方もいます。ですが、命に関わることであり、大変な状況になってからでは取り返しがつきませんので、今回の取り組みをしっかりと知らせたいです。

今後、ろう者の皆さまが安心して生活できるよう、公明議員にも協力をお願いしつつ活動に力を入れてまいります。